

大会名 Competition	第26回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
No. M-105	Year Month Day Time 2013 年 5 月 3 日 17 : 10
場所 Place	能代市総合体育館



チームA 延岡学園 75 ○	<table border="1"> <tr><td>17 1st</td><td>27</td></tr> <tr><td>26 2nd</td><td>12</td></tr> <tr><td>11 3rd</td><td>21</td></tr> <tr><td>21 4th</td><td>11</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	17 1st	27	26 2nd	12	11 3rd	21	21 4th	11	OT		チームB 能代工高 71 ●
17 1st	27											
26 2nd	12											
11 3rd	21											
21 4th	11											
OT												

主審:Referee 渡邊 亮 福島県
副審:Umpire 芳賀 聡 福島県
佐藤 光二 宮城県
テーブル・オフィシャル:Table officials 青森山田

No.	PI-IN	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-IN	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	夏井 隆光	CAP	10	0	5	0	0	4	×	松本 大河	CAP	6	2	0	0	2
5		マム シェツハ		-	-	-	-	0	5	×	佐々木 健登		14	0	7	0	4
6	×	松田 将馬		18	4	3	0	0	6	/	安保 友貴		2	0	1	0	2
7		青木 風斗		-	-	-	-	0	7	×	小田桐 匡志		31	5	8	0	2
8		大西 健斗		-	-	-	-	0	8		三根 一求		-	-	-	-	0
9	×	古沢 秀美		2	0	1	0	5	9	×	砥綿 啓伍		2	0	1	0	0
10		石田 裕太郎		-	-	-	-	0	10	×	荒木 直		2	0	1	0	4
11		根元 雅敏		-	-	-	-	0	11	/	金久保 翔		0	0	0	0	1
12		ナロン 竜平		-	-	-	-	0	12	/	湊 俊樹		0	0	0	0	1
13	/	塩月 絃生		0	0	0	0	0	13	/	長谷川 暢		14	0	7	0	1
14	/	野中 亮吾		0	0	0	0	1	14		斉藤 大輔		-	-	-	-	0
15	×	パブ マリック		31	0	13	5	2	15	/	中村 碧杜		0	0	0	0	2
16	×	田上 元己		2	0	1	0	0	16		渡邊 竜也		-	-	-	-	0
17	/	五代 雅己		2	0	1	0	0	17	/	盛實 海翔		0	0	0	0	0
18	/	染川 昂		10	0	5	0	1	18		小室 望海		-	-	-	-	0
コーチ		川添 祐司							コーチ		佐藤 信長						
Aコーチ		内村 昌弘							Aコーチ		栄田 直宏						
合計				75	4	29	5	9	合計				71	7	25	0	19

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

ここまで共に一勝ずつの両チーム。お互いマンツーマンディフェンスで試合が始まる。序盤、能代工#7小田桐が3Pやフリースローでリズムよく得点しリードを広げる。対する延岡学園は#14野中を投入し、流れを変えようとする。延岡学園は#15パブの高さを中心に攻めるが、能代工は#10荒木がリバウンドで応戦する。#15パブは中盤から徐々に得点を重ねるも、能代工の確率のよいシュートを前に、思うように点差を縮められない。最後に延岡学園#18染川がシュートを沈め、17-27としたところで1Q終了。

2Qは開始からお互い一進一退の攻防を見せる。どちらも中距離からのシュートを正確に沈め加点する。開始4分、延岡学園は#6松田の3Pで5点差まで詰め寄る。能代工は激しいディフェンスでリードを守ろうとするが、少しずつファウルがかさみ相手にフリースローを与えてしまう。開始7分、延岡学園は#4夏井の速攻で同点にすると、その後もフリースローを正確に決めて逆転する。中盤以降、シュートが落ち始めた能代工は速い展開から必死に食い下がるも、43-39と延岡学園4点リードで前半終了。

3Q序盤、能代工は#4松本の3P、#7小田桐のミドルシュートで一気に逆転する。しかし、延岡学園も#15パブのゴール下のシュートなどで再び逆転。主導権を握るため、お互い激しい攻防を見せる。中盤、能代工は#13長谷川のミドルシュートでリードを奪うと、その後はプレッシャーをかけて守りを徹底。開始7分、たまたま延岡学園はタイムアウトを請求しオフェンスの立て直しを図る。それでも能代工はプレスディフェンスで前線から激しく守り続けると、インターセプトから#7小田桐が得点。54-60と能代工がリードを奪い返し、3Q終了。

4Q、少しずつプレスディフェンスを攻略しはじめた延岡学園は開始5分、#6松田のドライブや3Pで2点差まで詰め寄せると能代工はタイムアウトを請求。逃げ切りを図りたいところだが、延岡学園#15パブの高さを止めることができずにリードを奪われる。再びタイムアウトをとった能代工は#12湊を投入して、さらに激しいプレスディフェンスを行う。能代工は残り1分、#7小田桐が3Pを沈め同点に追いつくも、すぐに延岡学園#17五代がフリースローを沈めて勝ち越しに成功。追いつがる能代工を振り切り、75-71と延岡学園が激戦を制した。